熊本大学 Kumamoto University

教職大学院だより

熊本大学大学院教育学研究科
令和7年3月1日発行

成果報告会～P２院生が２年間の学びを報告～

２月 10 日、教職大学院での２年間の学びを総括する成果報告会が開催されました。２年生は自信をもって取組の成果を発表し、その学びの成果を実感することができました。今回の学びを、学校現場でさらに充実させていくことが期待されます。発表会後のすがすがしい笑顔が印象的でした。

動画制作プロジェクト

教職大学院での学びについて、有志で動画を制作しました。

大学院２年生

大学院生が企画・運営した学校現場での「対話」を促すセミナーの参加者は、学びをどう生かしたのかを追いかけました。あらためて、「教師の学び」「対話の大切さ」を考えました。

大学院１年生

熊本大学教職大学院の修了生が、学校現場でどのように学びを発揮しているのか、大学院１年生が取材しました。取材を通して考えた「教職大学院での学び」について共有します。

P1院生による授業紹介

学校の危機管理の理論と実践

学校現場においては、「いじめ・不登校等への対応」や「自然災害を含む発的な事故、事件等への対応」など対応すべき危機管理上の課題が山積しています。そのような中、事件や事故等が起きてからの事後対応に追われている状況があります。講義では、判例集、統計資料を活用しながら学校教育のいかなる場面にリスクが潜んでいるのかを分析し、学校が策定すべき危機管理の対応マニュアルを作成しました。また実際に生じた事件・事故等に関する具体例を取り上げながら、事前予防と事後対応の問題点や的確な対応の仕方などについて、汎用的な対応力を学んでいます。

（P１ 堀尾 綾子）

P２院生による研究紹介

目的で貫く中学校生徒会活動の実践的研究

生徒が主体的に取り組むことができる生徒会活動にしたい！こんな現場での思いが高じて、研究に取り組んでいます。今回、「生徒と教師で、活動のそもそもの目的に立ち返ること」と「生徒が自分たちで活動をマネジメントできるようにすること」を軸に働きかけをしたことで、所属校の生徒会活動が刷新されていきました。

生徒会活動の指導が分からない、活動がマンネリ化している、なかなか生徒の主体性につながらない等、現場でお困りの先生方の一助となればと考え、今後も研究を進めてまいります。

（P２小島 孝介）